

# 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

- |  |  |
|--|--|
| <p>①ダリル・ブリッカーほか著『2050年世界人口大減少』文藝春秋<br/>(2020年2月刊, 381p, 四六判)</p> <p>国連の人口推計に基づき、将来は世界的規模で「人口爆発」が起こり、貧困増加や食糧不足、環境劣化が待ち受けていると警告されてきた。しかし、本書はこうした予測がすべて見事に間違っていると否定。いまから30年後に世界人口は90億人近くでピークを迎え、史上初めて減少に転換、その後増えることはないの見通す。すでに日本、韓国、スペイン、イタリアなど25カ国で毎年人口が減っており、中国ですらあと数年で人口減少に転じるという。本書は、人口を大幅に増やし続け、高齢化も緩やかな国であるカナダに着目。移民が高い教育を受け、あらゆる国出身の人々が社会で活躍している同国を好事例とし、日本が同じ選択を受け入れる日は来るのだろうかかと問題提起する。</p> | <p>③伊藤るりほか編著『家事労働の国際社会学』人文書院<br/>(2020年2月刊, 390p, A5判)</p> <p>日本での家事労働をめぐる議論について編著者は、「家内」であると同時に「国内」、つまり二重の意味で「国内問題」と考えられてきたが、そうした状況にも変化が生じている、という。福祉国家の後退、女性の就労拡大、新自由主義的政策の台頭を背景として、世界的に「海外就労労働者の女性化」「国内家事労働への海外女性労働者の就業拡大」などの状況が現れ、その象徴として「家事労働者のためのディーセントワーク（人間らしい仕事）条約」を2011年に国際労働機関（ILO）が採択。日本でも家事労働が国際問題に浮上してきた。本書は、とくに有償労働の諸問題を探るため、日本を含むアジア、欧米諸国で現地調査し、各地の家事労働者の処遇と権利保障を明らかにした。</p>  |
| <p>②尾野裕美著『働くひとのキャリア焦燥感』ナカニシヤ出版<br/>(2020年2月刊, v+188p, A5判)</p> <p>本書は、若者の転職希望者の多くが自分のキャリア形成を急ぐあまり、漠然とあせる結果、逃避先として転職を考えているのではないかと、とみる。そうしたキャリア焦燥感を「切迫感（八方ふさがり）」「キャリア構築への衝動（将来に向けたがんばり）」「キャリアの懸念（キャリアに関する気がかり）」の3項目にして分析。このうち、「キャリア構築への衝動」の回答が多かった人は、目標に向けて早くキャリアを構築しようというポジティブな面があると説く。切迫感は人間的成長に抑制的に働き、逆にキャリア構築への衝動の回答にはプラス効果があるとの見方を示した。また自分のペースでキャリア構築の努力をしている人は、人生を悲観したり、不安視したりしないとも考察。</p>   | <p>④相馬直子ほか編著『子育て支援を労働として考える』勁草書房<br/>(2020年2月刊, iv+225p, A5判)</p> <p>次代を担う子どもの育成を社会全体で支えるため、国では子育てにかかる経済的負担の軽減や安全な育児が可能な環境の整備を実施できるよう様々な施策を推進してきた。しかし、子育ては長い間、家庭では女性の労働とみなされ、無償賃金や低賃金などの働き方の問題が指摘されてきた。本書では、保育労働と地域の実情に応じた地域子育て支援労働を総称する「子育て支援労働」という考えを打ち出し、支援に関わる人々の労働内容と身分保障の問題を検討。さらに調査や各種研究を通じて、家庭の周辺での地域の子育ての営みをはじめ労働として分析した学術書でもある。本書は、地域子育て支援を充実させることで、今後の家庭向けの子育て施策が向上すると見込んでいる。</p> |

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2020年3月-5月労働図書館受け入れ)

- |   |  |
|---|--|
| ⑥伊東昌子ほか著『職場学習の心理学』勁草書房 (xii+218頁, A5判)                            | ⑩柗田智彦著『中高年がひきこもる理由』青春出版社 (205頁, 新書判)                       |
| ⑦石崎憲憲ほか編著『同一労働同一賃金の基本と実務』中央経済社 (2+ xv + 466頁, A5判)                | ⑪片山優美子著『一般企業への重度精神障害者の就職をどう支援していくか』ミネルヴァ書房 (vii+203頁, A5判) |
| ⑧第二東京弁護士会労働問題検討委員会編著『働き方改革関連法その他重要改正のポイント』労働開発研究会 (xiv+413頁, A5判) | ⑫苅谷剛彦ほか著『大学はもう死んでいる?』集英社 (283頁, 新書判)                       |
| ⑨和田肇ほか編著『労働法・社会保障法の持続可能性』旬報社 (xix+461頁, A5判)                      | ⑬日本経済新聞編『トヨタの未来:生きるか死ぬか』日本経済新聞出版社 (253頁, 四六判)              |
| ⑩橋本陽子編『E・U・ドイツの労働者概念と労働時間法』信山社 (13+170頁, A5判)                     | ⑭碓田のぼる著『一九三〇年代「教労運動」とその歌人たち』本の泉社 (183頁, A5判)               |

### 労働図書館 <https://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書125,842冊、洋書32,810冊、和洋の製本雑誌27,114冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(244種)、洋雑誌(139種)、紀要(502種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23  
 開館時間: 9:30 ~ 17:00  
 休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他  
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659  
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです  
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください  
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています



※現在、新型コロナウイルス流行の影響で臨時閉館している場合があります。開館情報はHPでご確認下さい。